

みなとのニュース

北海道マリンビジョン 21 構想検討委員会(第一回)の開催について

北海道開発局 農業水産部 水産課

令和4年8月26日に「北海道マリンビジョン 21 構想検討委員会(第一回)」が札幌市内で開催されました。

北海道マリンビジョン 21 とは、全国への水産物供給基地としての役割を将来にわたり守り育てていくため、地域の資源を活かし、多様な主体の連携協働により、活力ある北海道の水産業と漁港漁村の目指すべき姿を示した北海道開発局が定めた長期構想です。初代マリンビジョンが平成7年に策定され、その後水産業を取り巻く情勢変化を踏まえ平成16年と平成25年の2度にわたり見直しが行われています。前回の見直しから約10年が経過し、この間、主要魚種の不漁や魚種の変化、海洋環境の変化、自然災害の激甚化、水産物の輸出、スマート水産業の導入など水産業を取り巻く状況は大きく変化しており、また、令和4年3月には新たな水産基本計画や漁港漁場長期計画が閣議決定されています。このような情勢変化に適切に対応するため、北海道開発局では13名の学識経験者、各分野の専門家等で構成される北海道マリンビジョン 21 構想検討委員会を設置し、現行ビジョンの見直しに取りかかることとしました。

第一回構想検討委員会では、現行ビジョンの総括と新たなビジョン策定に必要な着目点について議論が行われました。現行ビジョンの総括では、水産物の付加価値化を中心に議論が進められ、各委員からは、「商

品開発は、生産者の都合で作るのではなく、マーケットイン(消費者ニーズ)の観点が重要」、「活締めにより、今まで生食できなかった魚が食べられるようになった。観光と絡めれば、雇用が創出され、付加価値を付けることになる」、「選別の方法ひとつで、漁業者の所得向上、付加価値向上に繋がった事例がある」、「海外需要を高めていく必要がある。そのためにはエコラベル等の認証取得も重要である」、「ブランド化を進めている地域の取り組みを学べる情報交換の場があると良い」など、様々な意見が出されました。新たな着目点については、「道内の各地で行われているサケの養殖を重要課題に加えるべき」といった意見やSDGsの観点から「マイクロプラスチックの問題も重要な視点」と意見が出されたほか、漁村地域の振興の視点からは、「イベントだけでなく、恒常的に人が来るような仕組み作りが重要」、「年齢、性別に依らない魚食普及活動が必要」、その他の視点では「後継者育成については大きな視点として入れるべき」といった意見が出されるなど、活発な議論が行われました。

本検討委員会は、今後、本年12月と来年2月にも開催を予定しており、今年度中に新たな北海道マリンビジョン 21(改定案)をとりまとめ、来年6月の公表を目標に検討を進めていくこととしています。



長野委員長挨拶



検討会全景